

水辺のふるさと かつしか 春号

2024.12
-2025.2

自然環境レポーター通信



写真のタイトル：メジロ

撮影場所：水産試験場

写真提供：下山田隆

目 次

1. 55種の動植物調査結果 P 2～5
2. 自由レポート P 6～19
3. 季節の写真集 P 20～22
4. 魚からの便り P 23～26
5. 環境課からのお知らせ P 27～29

担当編集の
ひとこと



こんにちは。環境課自然環境係の大野と申します。

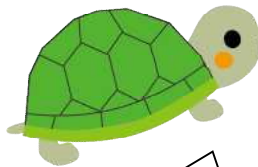
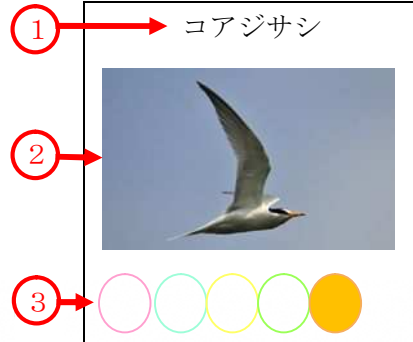
早いもので、私が本誌を担当して2年が経ちました。今回は、いつもどうやって編集しているかザックリとお話したいと思います。まず、レポーターの皆さまへ55種等の調査書と共に原稿提出締切日をお知らせします。原稿は、55種や55種外の調査書のほか、自由レポート・季節の写真集があり、郵送や専用フォームを通じて提出されます。自由レポートと季節の写真集は、提出日に編集レポーターへ送付して生物種別や誤字等を校正いただきます。紙でも電子でも見やすいよう意識して体裁を整え、手続きも済ませたら、印刷依頼をかけ、区ホームページに掲載します。本誌が仕上がったら、関係各所へ送付して、区役所内のラックに配架してお終いです！3か月ごとの発行なので、これを年4回繰り返します。皆さまのご協力のお陰で出来上がっているのです。これを読んでご興味を抱いた方は、ぜひ7月頃の募集時にお申し込みください。どうぞこれからも、「水辺のふるさとかつしか」をよろしくお願いいたします。

環境課自然環境係 大野

55種の動植物 調査結果（12～2月）

【次ページの見方】

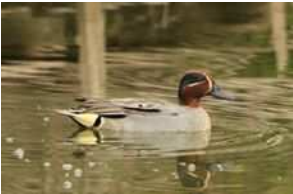
- ① 名前（赤字は外来種）
- ② 写真
- ③ 発見された調査区
（調査区ごとの色で塗り潰し）



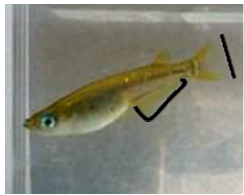
在来種のコアジサシが
調査区5で発見されたと
分かるね！



調査区 1  調査区 2  調査区 3  調査区 4  調査区 5 

コアジサシ      	ウグイス      	ギンヤンマ      	トノサマバッタ      
ツバメ      	コサギ      	アキアカネ      	クマゼミ      
オオヨシキリ      	カワセミ      	オオカマキリ      	アブラゼミ      
コガモ      	コゲラ      	エンマコオロギ      	ツクツクボウシ      
ツグミ      	シジュウカラ      	カンタン      	ミンミンゼミ      

ニイニイゼミ  ○ ○ ○ ○ ○	テングチョウ  ○ ○ ○ ○ ○	ナガミヒナゲシ  ○ ○ ○ ● ○	セリ  ○ ● ○ ○ ○
ヤマトタマムシ  ○ ○ ○ ○ ○	ツマグロヒョウモン ←雄  雌→ ○ ○ ○ ● ○	シロツメクサ  ○ ● ○ ● ○	オオバコ  ○ ○ ○ ○ ●
ナガサキアゲハ  ○ ○ ○ ○ ○	アカボシゴマダラ  ○ ○ ○ ○ ○	スズメノエンドウ  ○ ○ ○ ○ ○	オオキンケイギク  ○ ● ○ ○ ○
クロアゲハ ←表  裏→  ○ ○ ○ ○ ○	アカメガシワ  ○ ● ○ ○ ○	イモカタバミ  ○ ○ ● ● ○	カントウヨメナ  ○ ○ ○ ○ ●
ナミアゲハ  ○ ○ ○ ○ ○	スギナ ツクシ  ○ ○ ○ ○ ○	アレチウリ 果実  ○ ○ ○ ○ ○	カントウタンポポ 反り返らない→  ○ ● ○ ○ ●

ツユクサ  ○ ○ ○ ○ ○	ミシシippアカミガメ  ○ ○ ● ○ ●	コガネグモ  ○ ○ ○ ○ ○
ジュズダマ  ○ ○ ○ ○ ○	ニホンカナヘビ  ○ ○ ○ ● ○	ジョロウグモ  ○ ○ ○ ○ ○
ススキ  ○ ○ ○ ○ ●	ニホンアマガエル  ○ ○ ○ ○ ○	メダカ  ←カダヤシメダカの特徴に注意 ○ ○ ○ ○ ○
アライグマ  ○ ○ ○ ○ ○	ニホンアカガエル  ○ ○ ○ ○ ○	ブルーギル  ○ ○ ○ ○ ●
ハクビシン  ○ ○ ○ ○ ○	ウシガエル  ○ ○ ○ ○ ○	ベンケイガニ  ○ ○ ○ ○ ○

固く小さい蕾だった。それに気が付いて忍び寄る寒さを避けて家の中に取り込んだのは十一月の終り頃だった。鉢の主は蟹サボテンで、生前義母が丹精していたのだった。生前義母は九十一歳まで生きて花を愛し、誰からも愛される生涯を送った人だった。今から三十年余りの昔になる。そうしてみるとこの花の寿命はすこぶる長いことに驚く。母から引き継いでから植え替えたのは一度だけで水やりだけは欠かさないで花をつけると家に取り込むのを繰り返すだけ。丈夫で手数がかからず、亡き義母の様だった。生前義母は何でも一人で行い人手を煩わせなかった、残念なことにある日突然家の中で転んで、大腿骨を骨折してから自身の足では歩けなかったのは悔やまれたに違いない。

最近を取り込んでからそばでゆっくり、観察が出来る。固い小さい花の蕾が日に日に膨らむ様子を眺めるのは花の少ないこの時期には楽しいひと時なのだ。乾燥期の今頃乾いた空気も和らげ湿度が保てる。毎日水を遣るから。

今では私も亡き母の没年の頃に近づきその心境がよくわかるようになった。どんなにか寂しかったことか……。なんでも痛みは経験しないと解らないものなのだ。私がそれを言うと家族は共鳴しません。彼等にはまだ先の話なのです。カニサボテンは今、満開に近く艶やかで美しい。

令和6年12月16日

冬の写真2025 調査区2 高橋雅子

☆ゴイサギさんとヒヨドリさん。



☆カモメ類 そろそろ頭が黒くなってきています。



☆ヒドリガモ



曳舟川親水公園「ふゆみずたんぼ」で葛飾の生態系を考えてみたり。

広瀬 温 (調査区2)



12月22日 わら飾り～大豆の脱穀～お雑煮で一年の締めくくり

郷土と天文の博物館前の田んぼで行われている「米づくり体験教室」は、9月に稲刈り、11月に大豆を収穫し、一年の農作業を終えた。年の瀬の12月22日、一年を締めくくる教室が開かれた。博物館が改修工事中のため、青空教室。冬至翌日の太陽は低く、風が吹き抜ける中「わら飾り」づくりに取り組む。稲わらを水に浸し、柔らかくして縄をなう。親も初めての体験、親子で力を合わせて編んでいく。



米どころの葛飾ではわら細工が盛んで、子どもも戦力だった。新年を迎える飾りをつくり上げ、

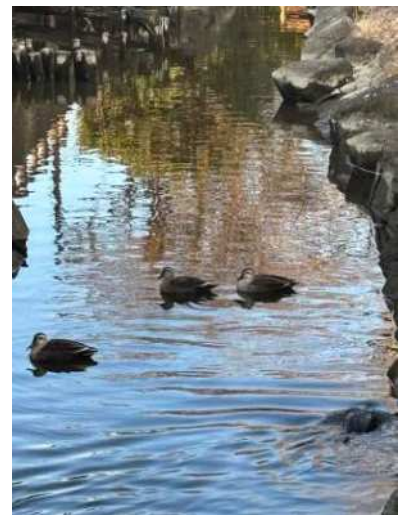
大豆の脱穀を終え、雑煮をいただく。白い餅と緑の小松菜だけが具のシンプルな雑煮。葛飾で食されてきた伝統の一杯が冷えた身体を暖める。

1月19日 真冬の生きもの観察「ふゆみずたんぼ」で研修会

この2年間、博物館の田んぼで「米づくり」を観察・記録してきたが、冬のこの時期に田んぼに向き合うのは初めて。最高気温9℃、曇り空の下、網を握り、畔から手を伸ばして泥に隠れたドジョウを探す。米の収穫後も水を落とさない冬期湛水田では生きものが冬を越せる。また、水を張ることで雑草の生育を妨げ、春～夏も無農薬でイネや生きものの揺籠となる。

水田が広がっていた葛飾の生態系は「ふゆみずたんぼ」で維持されてきた。今回、自然環境レポーターの面々が博物館の小峰学芸員の話を通じて直接聞く機会が持てたのはとても有意義だと思う。警戒に接することで、葛飾の自然環境を考える個々の取り組みに生きるだろう。

1月下旬、自転車で亀有方面へ向かう。田んぼの水は地下に埋設されたボックスカルバートを流れる葛西用水の水が利用されている。亀有寄りの曳舟川親水公園ではビオトープの再整備工事が進んでいる。常磐線のガードをくぐってさらに進み、足立区に入ると葛西用水が開渠で顔を出す。カルガモが泳ぎ、東和親水公園の池では冬空の下、アオサギとカワウが獲物を狙っている。さらに遡ると花畑運河を伏せ越しで越え、圀川にぶつかる。葛飾の田んぼは圀川を通じて中川や綾瀬川とつながっている。川で育った小魚や水生生物が田んぼに流れ込み、生命が循環していく。



春を前に環境イベントを覗き、東京低地の最新情報を学んでみたり。

広瀬 温（調査区2）

2月9日 あらかわ学会年次大会

毎年恒例の「あらかわ学会」の年次大会に参加する。1996年に活動を開始したあらかわ学会が主催し、国交省の荒川上流河川事務所・荒川下流河川事務所をはじめ、葛飾区を含めた荒川下流域の自治体が後援する。荒川下流河川事務所による基調講演で、気候変動を踏まえ、1月8日に変更された治水計画、計画に基づく流域治水の取り組みについて拝聴する。「流域治水」について耳にする機会は多いが、具体的な方策を理解するのはなかなか難しい。その他、NPOや各地域で活動する団体から15分に凝縮された発表が続く。「歴史・民俗」「自然・環境」「地域・社会」「河川・土木」と多岐にわたり、コウノトリの飛来状況や特定外来生物のナガエツルノゲイトウ、アレチウリ、外来種のセイバンモロコシなどオギ原を侵略する植生への対応など、興味深い報告が盛りだくさん。「葛飾あらかわ水辺公園」の再整備に有用な情報も多く、葛飾の河川への取り組みに生かせるヒントが詰まっている。来年も忘れずに参加しようと思う。

あらかわ学会年次大会2024 第25回 2025年2月9日(日)10:30~18:00 綾瀬ブルミエ(足立区勤労福祉会館)				
【論文発表】				
No.	番号	時間	部門	題名
1	A-1	10:45~11:00	歴史・民俗	赤水門(旧新田水門)の重要文化財指定を考える ～地域住民の想いが結んだ文化財～
2	A-2	11:00~11:15	歴史・民俗	綾瀬川の河岸堤 その後
3	A-3	11:15~11:30	地域・社会	Eポートの開発経緯と成果及び課題
4	A-4	11:30~11:45	自然・環境	北区・子どもの水辺におけるナガエツルノゲイトウ繁殖 対策調査
5	A-5	11:45~12:00	自然・環境	関東地方におけるコウノトリ飛来状況と周辺環境の観 察 その6
6	A-6	12:00~12:15	自然・環境	安福市市版「集分計」の葛飾河川・汽水域調査への活用 に関する数値的検討
7	A-7	12:15~12:30	自然・環境	2024荒川下流域の自然再生のための調査 結果報告と大会会場付近の環境自然の調査検証
昼食休憩 12:30~13:30				
講演 13:30~14:15 「荒川基本方針の変更内容の紹介と流域治水の取り組み」 荒川下流河川事務所流域治水課長 新保 友啓(にいはらともひろ)				
【論文発表】				
8	A-8	14:15~14:30	地域・社会	アーバンリバー荒川連携大会2024
9	A-9	14:30~14:45	地域・社会	「1755年」スポン地盤と「荒川30重」
10	A-10	14:45~15:00	河川・土木	「東京湾臨海大堤防・国際海上都市構想」について
11	A-11	15:00~15:15	提 案	河川整備計画の論点
12	A-12	15:15~15:30	河川・土木	人々の暮らしと水との関わり 中川・綾瀬川流域の総合治水対策
15:30~16:00 ポスターセッション				
フリーディスカッション 16:00~17:30 「流域治水と市民の役割」コーディネーター:大				
【論文のみ】				

2月15日 外来種問題を考える

江東区の環境学習情報館「えこっくる江東」が主催する講演会「外来種問題を考える～カエルやトカゲの事例を中心に」にZOOM参加する。自然環境研究センター研究主幹・戸田光彦氏による、小笠原や南西諸島での長年にわたる外来種対策・希少種保全の研究成果を踏まえた中身の濃い考察が続く。一昨年6月の「条件付特定外来生物」規制など、外来種は日々の自然観察でも最も気がかりな問題だ。カミツキガメやアカミミガメだけでなく、特定外来生物に指定されていないクサガメが固有種のニホンイシガメと交雑している報告など、難題は広がるばかりだ。

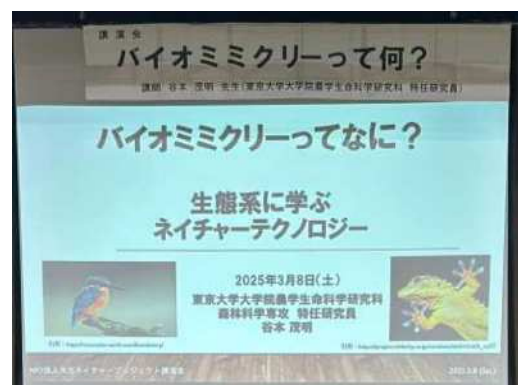
2月17日 葛飾区水と緑の基本方針実施プラン策定委員会を傍聴する

環境や社会情勢の変化する中、国や都の施策を踏まえ「緑地・ランドスケープ」「公園」「水辺」「都市農地」などのあり方を考える「(仮)葛飾区水と緑の基本方針・実施プラン」の第2回策定委員会を傍聴する。昨年10月の葛飾区環境審議会でも傍聴した来年6月開催の「全国みどり」と花のフェア」とともに、今後もHPなどで公開される情報を見守っていききたい。

3月8日 青戸地区センター「バイオミミクリーって何？」

「マジックテープ」や「ヨーグルトのふた」など、身近な生活に生物由来のネイチャーテクノロジーが応用されていると知ってはいても、それらが「バイオミミクリー」と呼ばれる、自然界を模倣した持続可能な技術開発だとはいまだ初耳。そんな最先端の講演会がNPO法人水元ネイチャープロジェクト主催、葛飾区環境課共催で開かれた。東大大学院農学生命科学研究科の谷本茂明氏による、技術開発のアプローチ手法、技術的・社会的課題、今後の可能性などをわかりやすく解き明かす充実の120分。こうした情報が葛飾で得られるのは、とても恵まれた環境にあると改めて感じる。

地球温暖化により災害リスクが高まる中、国や都の環境施策も変化する。これからも気になるイベントに足を運んで講師に質問をぶつけ、情報をアップデートしながら東京低地の自然環境を見つめていきたい。外来種ではなく、葛飾本来の在来種に目を向け、持続可能な「水辺のふるさと」を目指す。個人的には、引き続き「水辺・公園・米づくり」がテーマとなるかな。



氏名：石鍋 壽一	町名：小菅	調査区：3
----------	-------	-------

2024年12月21日

仕事で庭の手入れした

会社で敷地の木の手入れを当番制で担当場所を決められてやる事になり、週1回、草刈・枝切をしました

夏場は朝から熱中症注意報が出る日もあり、大変でした

暑すぎて、担当場所だけなのですが、作業を1回休むだけで、草も木もボーボーになっていて、汗だくで、流行りの扇風機がついたベストも着たのですが、40℃超えると効果がないと説明書にも記載されていました

真夏は真剣な作業で余裕がなかったのですが、少し暑さが緩んだころ、ふと思ったのは、「東京じゃこんなに枝をたくさん切るなんて贅沢できないな。貴重な体験だ」という思いと「ものすごくたくさん草や枝を切った。この切った量はすごい。植物って、とんでもない量のCO₂を吸収しているんだな」と感じました

自動車はCO₂を出してそれには追いつかないだろうけど、植物のCO₂吸収量・固定量はすごいと実感しました

東京に住んでいるだけでは感じ取れないことで、すごく良い体験でした

秋は、すごくたくさんドングリが落ちて、良く考えると前年のドングリがたくさん発芽してひざたけ位になっていたのを夏にたくさん切っていました

もっと土地に余裕があって広ければ、あっという間に緑が増えて、遠くの緑を長時間渋滞ドライブして見に行く事も必要なくなるなと感じました。

日の出ている時間が減り始めると、植物の成長はピタッと止まり、それも驚きました

枝切ばさみとか、ひと夏で結構痛みますね。鉄の消費量もかなりです

氏名：石鍋 壽一	町名：小菅	調査区：3
----------	-------	-------

2025年1月11日

イヌがウンチをするところ

イヌを昔飼っていました

イヌがウンチやオシッコをする時、関心した事があったので、書こうかと思っています

一般的には電柱の下でするイメージが強いと思います（オス。縄張り主張）

1つ目、落ち葉が盛ってあるところにする

人間もオガクズが入っていて微生物の力でニオイも出ず、発酵させるトイレがあったと思います

最近知ったのですが、葉っぱの緑色、葉緑素にはマグネシウムがあって、木の中で葉っぱは特にカリウムの多い所です。オシッコにはアンモニア（チッソ）が、ウンチには富栄養化の元で問題になっているリンが入っています

この中で、マグネシウムとアンモニア（チッソ）とリンは、条件にもよるのですが、選択的にくっついて固形になる（一部）（チッソは重要肥料。固形になりづらい）らしいです。固まって地表に長くとどまり、ゆっくり効く肥料になります。市販されている肥料では頭文字をとってマグアンプ（P はリン）というのがあります。肥料として優秀だという事です

2つ目、枝が横に広がった木の下では、枝の広がった先に近い方で用を足す

植物を育てたことのある人なら知っていると思うのですが、広がった葉の下、根っこの広がった先の方が、植物は栄養分を吸収しやすいらしいです

用を足すところは、こういうところだけではなく、例外も多々あります

番組は忘れたんですが、ラジオで、こういう無意識に行うことが、関係性の中で効果ある事存在に西洋の人は神を感じるらしいと言っていました

氏名：石鍋 壽一	町名：小菅	調査区：3
----------	-------	-------

2025年2月4日

アルダー神社

水元公園に行くとハンノキっていう木が結構生えているんですが、東京の湿地を象徴する、日本の湿地を代表する外見上も木肌も美しい木です。

樹皮や実は、服を黒染めにする染料にもなるらしく（渋成分が多い）、渋谷という地名は、あそこ湿地なので、黒染めにする渋を取っていたんじゃないかと思います（江戸時代に書かれた絵をみると皆結構黒染めを着ている）。

ほぼ同種の木が（同じかもしれない）、アメリカではギターのボディに使われたりしています（アルダーっていう名前）。いい音します。ギターって弾くと振動がダイレクトに体に響いて気持ちいいです。木によって音は変わり、エレキギターも含め、ギターは木の音を聞いているとっていいと思います。

ギターに使う木が世界的に不足・高騰していて、ハンノキはそうでもないらしいのですが、ギターにも使われる木で、東京の湿地を代表する木で、神聖な感じがするので、私は勝手に水元公園をアルダー神社だと思っています。公園ではギターには今利用していないと思うのですが。

国産材で虫食いになった赤松（松茸もとれる）をギターに使った例があって、すごく良い音するんで、びっくりしたんですが、水元にも生えている黒松（海岸の象徴）も木材を調べるとひとくくりになっていたんで、良い音するんじゃないかと思っています。ホシイ

ハンノキも黒松も、増やしてくれるとイイナ

参考資料

Mokuzai-tonya.jp 木材図鑑 東京木材問屋協同組合 アルダー

www.deviser.co.jp SURF BREAKER2

【アライグマ】

発見場所: 東金町6丁目旧水戸街道

日時: 2024年10月19日午前0時20分



最近の住宅街ではあまり見かけなくなった暗渠化されていない細い水路にいた。水路は流れもなく旧水戸街道から住宅の間を50～60mほど真っすぐに進み、樹木がうっそうと生い茂る民家の敷地付近で見えなくなる。人が暮らす街中の細い水路で目立たぬように暮らしもしかしたら食べ物を洗っているかもしれないと思うと不思議な気持ちになった。

アライグマは攻撃性が高く凶暴との情報もあるが、目が合っても逃げず、じっとこちらを見ている。餌を待っているのか警戒しているかわからないが丸い顔にキョトンした目が可愛い。その愛らしい顔とは裏腹に様々な在来生物を食べる特定外来生物。

←翌日の水路

【イソヒヨドリ】

発見場所: 東金町1丁目金町駅北口、金町6丁目金町駅南口

日時: 2024年9月10、12日



(写真:「フリー素材無料写真 森の父さん花鳥風穴」より転載)

2024年8月に三郷のホームセンター駐車場に響き渡る鳥の美しい鳴き声。声の持主は鉄塔の先端に止まり肉眼でははっきり見えずシルエットしか分からない。録音だけでもと思ったがすぐに飛立った。
2度目の出会いは9月。金町駅近くの10F建て程度のマンションの屋上に止まり、また美しい声で囀っている。多くの通行人が足を止め上を見上げるような美声。今度ははっきりと見えた。ヒヨドリサイズで腹側のオレンジ色が目立つ。

鳴き声をうまく表現できないが図鑑などには以下の記載があり。
「ホイピーチョイチョイ、ツツピーコー」フィールドガイド日本の野鳥
「ヒヨ チー チョ チビ」「チヨチー ビイ ビビ ヒイ チュウ」日本の野鳥
「ツツピーコー」日本の野鳥さえずり地鳴き図鑑
「ピーチョ チョ チビ」鳥類図鑑
「ヒヨピーチョイチーツツピ」Canon Bird Branch Project

その他 : 発見場所は全て東金町7丁目*観蔵寺付近

*観蔵寺: 江戸時代初期頃創建と推測。いぼとり[願い事]地藏菩薩尊

【チョウトンボ 2024年8月17日】【ハグロトンボ 2024年8月18日】【ヒキガエル 2024年10月9日】

大谷 悦子	町名：南水元	調査区：5－28
-------	--------	----------

【2024 年 12 月～2025 年 2 月】

<花>

カタバミは春の花と思っていましたが、冬にもいろいろ咲いていました。イモカタバミ、ハナカタバミは 12 月には咲いていました。オオキバナカタバミは 12 月には葉が茂り、1 月には咲き始めました。在来カタバミも 1 月には咲いていました。



12/26 東金町
イモカタバミ



12/26 東金町
ハナカタバミ



1/18 東金町
オオキバナカタバミ



1/18 水元公園
カタバミ

ホトケノザも春の花と思っていましたが、12 月頃から冬の間ずっと咲いていました。1 月にはオオイヌノフグリも土手で見かけるようになり、2 月にはあちこちで見かけるようになりました。2 月も後半になると、ミチタネツケバナ、フラサバソウ、キュウリグサ、アメリカフウロ、カラスノエンドウなどが咲いて、一気ににぎやかになりました。他にはサザンカ、ロウバイ、ヒサカキが咲いていました。



12/5 東金町（土手）
ホトケノザ



1/8 水元公園
サザンカ



1/31 水元公園
ロウバイ



1/31 水元公園
ヒサカキ

<葉痕>

冬は葉痕（葉の落ちた痕の模様）がおもしろいです。形やボツボツと見える道管の痕は植物によってさまざまです。顔の形に見えたりしてかわいいです。しかし、探すのは大変です。大きい葉痕は大きな木の上の方だったり、手近なものは細くてわかりにくかったりします。せっかく見つけても、何の木かわからなかったり、家に帰って見たらどの木だったかわからなくなったり、と苦心の連続です。比較的に見つけやすかったのは、アジサイ、アオキです。

面白かったのは、南天です。三出複葉で、葉の根元がちょっと大きいので、葉の取れた後が大きくて真ん中がとがっていました。



1/29 東金町
ナンテン（葉痕）



1/29 東金町
ナンテン（葉痕）



1/31 水元公園
アオキ（葉痕）



1/31 南水元
アジサイ（葉痕）



2/20 南水元
アジサイ（葉痕、横から）



1/31 南水元
ハクモクレン（葉痕）



1/31 南水元
モクレンの仲間（葉痕）



2/2 南水元
キダチチョウセンアサガオ（葉痕）

<実、種>

葉が落ちたことで、キカラスウリの大きな実が目立っていました。

実が落ちて花托だけになったサネカズラはヤマボウシの実に似ていました。

また、切り株には、カミキリムシの食痕とされるものがありました。こんなに喰われてしまっはたまりませんね。



1/16 水元公園
キカラスウリ（実）



1/19 水元公園
キカラスウリ（種）



1/8 水元公園
サネカズラ（花托だけ）



1/19 水元公園
カミキリムシの食痕

以上

冬桜と冬の自然観察会

自然環境レポーター



☆公園内のフユザクラ



☆冬水田んぼの生き物探し



☆親水公園内のモニュメント（鷹狩り）



☆水田の歴史



☆観察準備

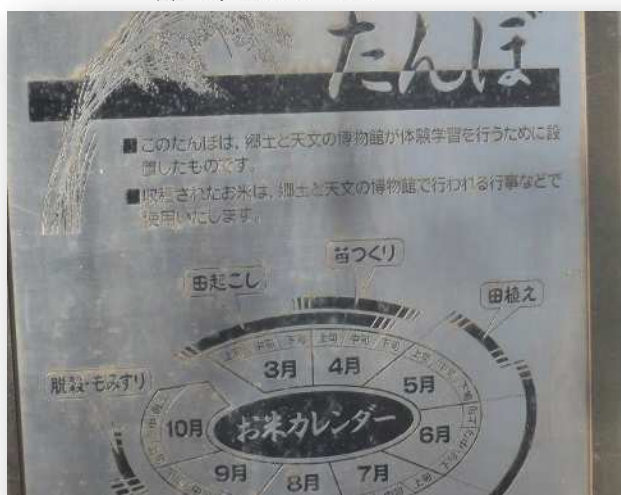


☆葛飾区の水田の歴史説明



☆冬水田んぼの生き物探し

☆お米のカレンダー



冬の観察会は、年明けの新春、令和7年1月19日（日）に「冬水田んぼで古来の自然環境を知ろう」のテーマのもと曳舟川親水公園で開催されました。この場所は、曳舟川（葛西用水）の面影を残し、水をテーマとして整備された南北延長約3km（亀有から四つ木）の公園です。

講師は郷土と天文の博物館 学芸員 小峰 園子先生です。～田んぼの学校を行う博物館～として、葛飾区で古くから栽培されていた「タロベエモチ」というお米を小さな水田で育て、水田地域であった葛飾区の、古来からの農業について学びました。また伝統農法としての「冬水田んぼ」の手法についても学びながら、水田んぼで生息する生き物観察をしました。

立春と、その後の春の花で季節を感じて



☆イワシの頭とヒイラギ (立春) : 認定子ども園 : 水元にて



☆紅梅と白梅 2月21日 : 認定子ども園



☆スノードロップ



今年の節分は、2月2日でしたから立春は3日でした。豆をまく理由は、昔から日本には穀物をまくことでお祓いやお清めをする風習があったことが挙げられます。節分に用いられる大豆は五穀の一つで、米よりも大きく、床や壁にぶつけたときの音も大きいことから、邪気を祓うのに使用されたとも言われているようです。

しかし、近年の住宅事情により、「鬼は外！福は内！」の豆まきの声もあまり聞かれなくなっていますが、子ども園等では、日本の伝統文化をしっかりと引き継いでいます。そして「イワシの頭とヒイラギ」の掲示は、節分と立春の立役者グッズです。

暦の上の春2月は、季節の花として寒さの中で、梅の芳香の漂う月です。青空に映える紅梅や白梅と、地面を見ているように、脚下照顧の趣きで咲く、スノードロップに健気で逞しく寒気の季節を生きる、自然の営みに感動です。

氏名	K・N	町名	東金町	調査区	5
(水元公園正面入口～養魚場入口間の指定種の植物と昆虫)					
鳥類は大橋周囲～小合溜					
種類	植物・蝶々・野鳥 (令和6年 12月・7年1月・2月)				

種類	12月	1月	2月	種類	12月	1月	2月
セイヨウタンポポ	0	0	0	モンシロチョウ	3	0	0
ツユクサ	0	0	0	アオサギ	1	1	1
シロツメクサ	0	0	0	コサギ	1	1	2
シジミチョウ	0	0	0	カモ類	300以上	多数	多数
クロアゲハ アゲハチョウ	0	0	0	ユリカモメ	10	20	不明

昆虫情報

東京は相変わらず快晴続き、植物は枯葉で昆虫は見られないと公園を観察。第二駐車場とトイレの中間あたりでカラスが何かをつついていた。なんと大きな蛙がひっくり返って腹ばい状態。辞書では「ヒキガエル？」この場所では危険なのでマスクでつかみ川近くまで運んだ。体に傷はなさそうなので、通行中の老人のアドバイスも受け、池は危険なので川沿いの草むらに置いた。翌日探したがいなかった。冬はカモ類が池を占領するので逃げたのだろうが遠方の駐車場までよく歩いたと感心した。



野鳥情報

- ① 12月14日・16時30分・西側に夕焼けの太陽、東側に「月」がくっきりと珍しい。 渡り鳥は溜池に多数いたがユリカモメは少ない。



植物情報

- ①キャベツと思ったのが1個はカリフラワーで美味しく食べた。
- ②庭のつばきとビワの花がついに1月に咲く、去年は12月だった。
- ③2月中旬、日陰は枯れ草だが日当の良い駐車場になんと「カントウタンポポ1個」を発見した。その他、春の花も咲き出している。



地域猫情報

1月10日は風が冷たく寒いが、菖蒲田では数人の人で作業が始まっていた。白い毛の猫が1匹いた。彼の視線の先を見ると、沢山のハトが何かをついばんでいる。小さな木の実に。寒さのせいで野鳥にお菓子やパンをあげる人はいないのでホットした。公園以外の場所で地域猫を見るのは少なかったが、2月26日の17度の日には近所で4匹出会えた。寒い日は何処にいたのだろうか・・・。



季節の写真集 (12~2月)



メジロ 下山田隆
12/15 水産試験場



タヒバリ 下山田隆
1/2 江戸川



カワセミ 下山田隆
2/16 水産試験場

季節の写真集 (12~2月)



「冬の際立ち」 Ryu
12/31 お花茶屋公園



「夕暮れのコゲラ」 コゲラ
むしあお 1/5 水元公園



「何の花？」 Ryu
1/31 亀有

季節の写真集 (12~2月)



「遊びに来たよ」 サギ 瑛ちゃん
1/22 金町公園



「イソシギ (嘴に土? が付いています)」
イソシギ むしあお 1/5 水元公園



「梅にくぎづけ」 メジロ
瑛ちゃん 2/26 新宿

葛飾柴又新八水路 魚からの便り-329

調査回数 調査日 地点		331			備 考
		2024/12/14			
		本流	新八水路	新八ワンド	
1	オ イ カ ワ	4 110-139			
2	カ ダ ヤ シ		131 15-34	1 27	特定外来生物
3	ギ ン ブ ナ	1 123	1 84		
4	ゴ ク ラ ク ハ ゼ	1 31			
5	デ メ モ ロ コ	3 45-83			
6	タイリクバラタナゴ			1 21	
7	ニ ゴ イ	1 134			
8	ヌ マ チ チ ブ	2 43-47			
9	メ ダ カ		17 22-30		
計		6種類12個体	3種類149体	2種類2個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、新八ワンドあわせて9種類163個体の魚類が採集されました。
- ・ 晴れ、気温12.1℃、水温 本流7.7℃、新八水路5.8℃、新八ワンド8.6℃（14時30分頃測定）
「参考」江戸川の水位（観測所：千葉県市川市市川 市川根本排水機場江戸川側）
(10:00)1.62m (12:00)1.63m (14:00)1.64m

【参加者コメント】

- ・ 寒い 魚いない 焦りに焦って 普段と違うポイントへ やったぁ大物…自転車 採れました (MT)
- ・ 私は体調不良で今回も採集に参加できなかったが、極寒の条件下で投網を行なった方々に敬意を表する。
本流では31mmのゴクラクハゼ未成魚1個体が採集された。一見するとアシシロハゼの斑紋に似ていたが、腹鰭が丸いことと黒斑の分布様式からゴクラクハゼと同定した。成魚のような青緑色の輝点こそなかったが、この時期としては体側の斑紋が鮮やかでした。手網の方の努力の結晶である。(YK)
- ・ まるで台風のような風にも関わらず網を投げていただいてありがとうございました。
次回は、あんな風がないことを祈ります。(TI)
- ・ 強風と寒さで思うように打てなかったけど、なんとか貢献できて良かったです。(MO)

【今後の調査日】

2025年 1月13日(月・祝) 2月16日(日) 3月29日(土)

HP (<http://shigenori1.jimdo.com/>) 新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

葛飾柴又新八水路 魚からの便り-330

調査回数 調査日 地点		332			備 考
		2025/1/13			
		本流	新八水路	新八ワンド	
1	カ ダ ヤ シ		58 13-37	17 13-25	特定外来生物
2	ギ ン ブ ナ		2 59-88		
3	タイリクバラタナゴ		4 22-32		
4	デ メ モ ロ コ	1 52			
5	ヌ マ チ チ ブ	1 57			
6	メ ダ カ		23 23-33	4 23-26	
計		2種類2個体	4種類87体	2種類21個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、新八ワンドあわせて6種類110個体の魚類が採集されました。
- ・ 晴れ、気温12.6℃、水温 本流6.4℃、新八水路8.8℃、新八ワンド8.3℃（気温13時30分、水温15時頃測定）

「参考」江戸川の水位（観測所：千葉縣市川市市川 市川根本排水機場江戸川側）

(10:00)1.71m (12:00)1.73m (14:00)1.75m

【参加者コメント】

- ・ 風が強く、波が立って表層魚は期待できず、底も沈澱物が多くてあてにできず、サカナ絶滅してるんじゃないかという疑念の中で網を打ち続けるのは、長年のことで慣れている、とはいえ。
午後は、立ち込むと身の危険を感じるほどの風波でした。投網を持っていると重さで体が安定しますが、たも網は足もとがふらつきました。（KI）
- ・ 先月は投網に大穴開けました。必死に塞いで今回挑みました。胴長に穴空きました。（MT）
- ・ 本流で一匹の魚も採れなかった。高水位で風が強かったとはいえ、やはり悔しい。（SI）
- ・ 本流の水温が低く、日本淡水魚でもほとんどとれなかった。
新八水路では普段カダヤシばかりのところメダカがよくとれて、日本淡水魚は寒さに強いと再確認できました。（IS）

【今後の調査日】

2月16日(日) 3月29日(土)

HP（<http://shigenori1.jimdo.com/>）新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

葛飾柴又新八水路 魚からの便り-331

調査回数 調査日 地点		333			備 考
		2025/2/16			
		本流	新八水路	新八ワンド	
1	ア シ シ ロ ハ ゼ	1 39			
2	オ イ カ ワ	4 30-71			
3	カ ダ ヤ シ		12 18-31	1 20	特定外来生物
4	ゴ ク ラ ク ハ ゼ	2 42-43			
5	タイリクバラタナゴ		3 27-28		
6	ツ チ フ キ	2 62-80			
7	デ メ モ ロ コ	5 28-63			
8	ド ジ ヨ ウ		1 165		
9	ヌ マ チ チ ブ	16 28-75			
10	メ ダ カ		21 22-31	3 11-21	
計		6種類30個体	4種類37体	2種類4個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小一最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、新八ワンドあわせて10種類71個体の魚類が採集されました。
- ・ 晴れのち曇り、気温16.8℃、水温 本流10.2℃、新八水路13.5℃、新八ワンド18.9℃（14時40分頃測定）

「参考」江戸川の水位（観測所：千葉縣市川市市川 市川根本排水機場江戸川側）
 (10:00)1.41m (12:00)1.43m (14:00)1.43m

【参加者コメント】

- ・ 気温も水温も高いのに春告魚に出会えませんでした・・来月に期待しましょう・・（MT）
- ・ 風もなく天候に恵まれた調査日和。水路は完全に水溜まり状態で、先月からの流れでワンドと併せてメダカがよく採れた印象です。本流ではヌマチチブやアシシロ、ゴクラクなどのハゼが採れました。調査中は川に流れがなく岩もコケでヌルヌルで、冬でこれだと春夏は……と、今から少し心配です。（KY）
- ・ いつもの場所にヌマチチブがほとんどいなかった。君たちの冬場の行動パターンが知りたい。
 水路ではカダヤシよりメダカが多かったが、先月のカダヤシの駆除の結果であって一時的なこと。本流の水位が上がりワンドとつながれば元の本阿弥だろう。（SI）
- ・ 水路のドジョウは丸々として、網に入ったときライギョか鰻かと思った。以前に何度か採取されている個体らしい。
 小さいザリガニがたくさん採れていた。日本の気候に対応できていることを実感。（IS）

【今後の調査日】

3月29日(土) 4月26日(土) 5月24日(土) 6月8日(日) 7月13日(日) 8月9日(土) 9月7日(日)
 HP (<http://shigenori1.jimdo.com/>) 新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

葛飾柴又新八水路 魚類出現状況

調査回数・日程		1-48	49-106	107-163	164-223	224-235	236-247	248-259	260-271	272-283	284-295	296-307	308-319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333
年次		96-00	01-06	06/4-10	2011-15	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024										2025			
回数・日程		48回	58回	57回	60回	12回	12回	12回	12回	12回	12回	12回	12回	1.27	2.12	3.10	4.7	5.25	6.22	7.21	8.18	9.23	10.13	11.3	12.14	1.13	2.16
標準地名・地点		本新	本新	本新	本新	本新	本新	本新	本新	本新	本新	本新	本新	本新	本新	本新	本新	本新	本新	本新	本新	本新	本新	本新	本新	本新	本新
No.	標準地名・地点	流	ハ	流	ハ	流	ハ	流	ハ	流	ハ	流	ハ	流	ハ	流	ハ	流	ハ	流	ハ	流	ハ	流	ハ	流	ハ
1	イセゴイ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	ウナギ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	ワカサギ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	アカユ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	サケ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	タモロコ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7	スゴモロコ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8	デメモロコ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9	ヒガイ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10	ニゴイ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	カマツカ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12	ツチフキ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
13	モツゴ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
14	マル	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	ウグ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
16	カワムツ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
17	オイカワ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18	ハス	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
19	ワカ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
20	ハクレン	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
21	キンブナ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
22	ギンブナ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
23	ゲンゴロウブナ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
24	フナ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
25	キンギョ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
26	コイとフナの雑種	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
27	ヤリタナゴ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
28	イチモンジタナゴ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
29	アカヒレタビラ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
30	タイリクバラタナゴ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
31	ドジョウ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
32	カラドジョウ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
33	アメリカナマズ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
34	ナマズ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
35	クルマサヨリ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
36	メダカ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
37	カダヤシ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
38	ボラ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
39	メナダ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
40	カムルチー	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
41	クロダイ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
42	スズキ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
43	オオクチバス	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
44	コクチバス	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
45	ブルーギル	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
46	シマイサギ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
47	ヒイラギ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
48	ヌマチチブ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
49	チチブ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
50	シモフリシマハゼ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
51	ゴクラクハゼ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
52	クロダハゼ(※)	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
53	ヨシノボリ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
54	ビリンゴ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
55	ウキゴリ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
56	スミウキゴリ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
57	ウキゴリ(型不明)	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
58	マハゼ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
59	アシシロハゼ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
60	ヒナ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
61	カランダシ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
62	カランダシ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
63	カランダシ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
64	カランダシ	●	○	○	○	○	○																				

環境課からのお知らせ

★自然環境レポーター研修会を開催しました！★

令和7年1月19日(日)、「冬水田んぼで古来の自然環境を知ろう」をテーマに、曳舟川親水公園にて冬の自然観察会を開催しました。

研修会の前半ではパネルを用いて、昔の葛飾区の田園風景や街が発展していく様子の説明を受けました。伝統農法である「冬水田んぼ」については、機械を使用する現代農法には向かないものの、雑草の抑制や冬場の生きものの住処として役立つため、博物館の管理水田ではそういった環境を再現しているとのことでした。

実際後半に自然観察会を実施すると、冬場にも関わらず小魚やエビといった多くの生きものが見つけられ、都市公園内の水田においても生物多様性が保たれていることが分かりました。暖かな陽光で冬の寒さが和らぐ中、古来の自然環境について、自然環境レポーター達が実際に触れながら学べる研修会となりました。

ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

今後も研修会を開催していく予定ですので、レポーター同士の交流やレベルアップのためにも、皆さまのご参加をお待ちしております。



◀講師の解説を受けながら
水田の生きものを観察する
自然環境レポーターの皆さま



▲採取した生きもの（スジエビ等）

環境課からのお知らせ



★新ハ水路で魚類調査を行います★

自主生物調査団が、新ハ水路にて魚類調査を行います。調査の結果は、「魚からの便り」として水辺のふるさとかつしかに掲載しています。

【日時】 4月26日（土） 5月24日（土） 6月8日（日）

いずれも10時～16時ごろ

【場所】 江戸川河川敷 ※事前連絡をお願いします。

【持ち物】 着替え、昼食、飲み物、首に巻くタオル、短くないソックス

詳しくは、HP (<https://shigenoril.jimdoweb.com/>) をご覧ください。

★自然環境調査報告書（55種以外）★

自然環境レポーターの活動には、区内で見られる55種以外の動植物についての調査報告も含まれています。ご報告いただいた中からいくつか紹介します。

〈見方〉◆動植物種名・調査月・調査場所（P2参照）・気が付いたことなど

◆ホトケノザ・12-1月・調査区5・たくさん花をつけていました。日当たりのよいところで。

◆キジバト・12-2月・調査区2

◆ヒヨドリ・12-2月・調査区4・12月は柿の実食べに来る。1月はツバキ、2月はウメに。

◆メジロ・1月・調査区4

◆ウラキシジミ・12月・調査区3・暖かい日の日陰のコンクリートに止まっていた。

《お詫びと訂正》

「水辺のふるさとかつしか」冬号（第 331 号）の P. 18 及び P. 26 に誤りがありました（ナミアゲハ→アカボシゴマダラ、ホシホウジャク→イチモンジセセリ）。正しくは以下のとおりです。ここに深くお詫びし、訂正させていただきます。※ホームページは差し替え済みです。

▼P.18 左上



9/27 アカボシゴマダラ 水元3丁目

▼P.18 右下

地球温暖化をまざまざと日々の暮らしの中で体験してしまうことになった、今季の秋だったように感じます。毎年曆の上で、「彼岸」の文字を確認するやいなや「暑さ寒さも彼岸まで」の、季節の変化を知らせてくれる日本の季節用語をシグナルに、それに合わせた暮らし方を工夫していたのですが、どうもしっくりいかなくなっています。

9月の終わりのアカボシゴマダラが、芝生の上で羽を休めていたかのように見えますが、水分補給の行動だったのかな？10月の初めには水元3丁目の色んな場所で、ホシホウジャクを見つけました。（マリーゴールド・地面の上の紙・駐車禁止の表示ポールに）マリーゴールドに止まるのは理解できるのですが、ポールや紙は、ホシホウジャクは、どう判別したのでしょうか？

▼P.26 左上



アカボシゴマダラ 佐々木定治
9/27 水元3丁目

▼P.18 左下

10/3 イチモンジセセリ 水元3丁目↓



今号にご協力いただいた皆さま（敬称略）

石戸雅彦
江戸川の小鮒
佐々木定治
田村ひろ子
ひまわり
Ryu

石鍋壽一
大谷悦子
下山田隆
T・K
広瀬温
弥生さくら草

瑛ちゃん
K・N
高橋雅子
となりの庭
むしあお
ゆきひめ

自主生物調査団（編集：一澤成典）

ありがとうございました！

「水辺のふるさとかつしか」第332号
（葛飾区 自然環境レポーター通信第284号）

令和7年3月末日 発行

葛飾区環境部環境課自然環境係

〒124-8555 葛飾区立石5-13-1

代表電話（3695）1111

直通電話（5654）8237

FAX（5698）1538



▲区のホームページにも
掲載しています。

（URL）

<https://www.city.katsushika.lg.jp/kurashi/1000062/1030304/1037174.html>



「水辺のふるさとかつしか」の内容について、
お間違い等お気づきの点がありましたらお知らせください。